

28O-am07

妊娠高血圧症候群 (PIH) の予防のために行う情報提供に必要なエビデンスの構築
○高田 裕子¹, 野村 恭子^{2,3}, 木戸 浩一郎², 笹森 幸文², 名取 泰博⁴, 綾部 琢哉²,
厚味 巖一¹ (¹帝京大薬, ²帝京大医, ³帝京大女性医師・研究者支援センター, ⁴岩手医大薬)

【背景・目的】現在の女性の生活習慣や食生活、体型などから、妊娠高血圧症候群 (PIH) の妊婦が増加すると予想される。そこで、PIH の予防に対し、薬剤師が積極的にサポートできるのではないかと考え、妊婦に情報提供や健康相談を行うために必要なエビデンスの構築を目指し、患者情報の解析とヒト臍帯静脈血管内皮細胞 (HUVEC) の解析を行った。【方法】研究参加の同意を得た帝京大学医学部付属病院に入院中の妊婦 (PIH 群 14 名、対照群 34 名) の身長、体重、年齢、児の出生体重などの患者情報を電子カルテから収集し、PIH の発症や病態に関連する因子を調べた。また、出産後 2 時間以内に臍帯 (PIH 群 3 名、対照群 24 名) から HUVEC を調製し、24 時間培養後のタンパク質量をイムノプロット法で調べた。解析には JMP ver.11 を用いた。【結果】患者情報の解析を行ったところ、PIH 群は対照群に比べて、妊娠前後の BMI や年齢が高かった。また、MCV (平均ヘモグロビン容積) が小さく、妊娠週数も短かった。HUVEC のタンパク質量は、PIH 群で細胞接着因子の ICAM-1 と NO 合成酵素 (eNOS) の量が多かった。【考察】一般的に PIH のリスク因子として高年齢や肥満が知られており、本研究でも同様の結果が得られ、高年齢の妊婦には血圧の管理を行うこと、また、妊娠前から適切な体重管理を行うことが PIH の予防に繋がる可能性が示された。PIH 群の HUVEC では、ICAM-1 量が多かったことから、障害を受けたことが予想される。HUVEC は母体由来の成分の多い血液にさらされるため、母体の血中に血管内皮障害を引き起こした物質が含まれていたことが推測できる。HUVEC は児の細胞であるため、今回、PIH 群の HUVEC でみられた結果は、児の血管内皮障害を反映している可能性があった。児を守るためにも PIH を予防することは重要である。